

[学会報告] イタリアにおける歴史地震学の国際ワークショップ

石橋克彦(神戸大学)・北原糸子(東洋大学)・佐竹健治(産業技術総合研究所)

2002年7月にイタリア・シチリア島のエリーチェ(Erice)において、International School of Geophysicsの21回目として "Investigating the records of past earthquakes" というワークショップが開かれ、日本から筆者たち3人が講師として参加した。主催者は、メキシコの V. G. Acosta, イギリスの R. Musson, イタリアの M. Stucchi である。参加者は、招待講師と受講者をあわせて31ヶ国72名に及び、43講演と5ポスター発表が行なわれた。多くの講演は質疑を入れて40~50分と長く、各国の状況をじっくり聴くことができた。

プログラムに沿って概略を記す。(詳細なプログラム・アブストラクト・参加者名簿などは <http://emidius.mi.ingv.it/erice2002/>にある)

<セッション1: 歴史地震研究の現状>

- 2日 ヨーロッパ・地中海圏(イギリス, スペイン・ポルトガル, イタリア, 地中海南西岸諸国, 東欧・中欧諸国, スイス, ロシアなど)からの報告
- 3日 環太平洋地域(中国, 日本, オーストラリア, ニューージーランド, 南米, 中米諸国・メキシコ, カリフォルニア)からの報告
- 4日 午前: ドイツからの報告, ギリシア・フィンランド・スペイン・イタリアの短い発表
特別講演 N. Ambraseys(イギリス)「長期的な地震活動の現状と実際: 地中海東部・近東・インドにおける事例研究」
午後: 野外巡検(1968年の地震被害で廃された Poggioreale と Gibellina の街の跡)

<セッション2: 事例研究・方法論・他のデータの併用など>

- 5日 インド, 米国, メキシコ, カリブ海, 中欧諸国, 日本, イスラエル, イタリアに関する研究
- 6日 フランス・エジプト・シリア・スイス・ポルトガル・ブルガリアの短い発表
ヨーロッパの歴史地震共同研究の報告, 器械観測初期の震源, シチリア島の歴史地震総合討論
- 7-9日 野外巡検(古代ギリシア都市 Selinunte の神殿群の地震被害, Agrigento の「神殿の谷」, 1693年の地震で壊滅した Occhiola と Noto Antica の廃墟, 新 Noto の中世市街, Etna 火山)

国によって史料の状況などに違いはあるものの、歴史地震研究の基本的な問題点や方法論は驚くほど共通しており、この分野も地震科学の他の分野と同様に国際的な共通の課題であることを痛感した。具体的には、史料の取り扱い、歴史学者との共同作業、地質学・考古学的データの併用、ニセ地震(fake earthquake)の問題などを、多くの講演が取り上げていた。とくにヨーロッパにおける共同研究から得られた IDP(Intensity Data Point)の概念や史料の系統図の手法は日本にも参考になる。総合討論で歴史地震研究の国際的連帯の強化が再確認されたが、日本も積極的に加わることが望まれる。その一環として、従来から言われている中国や朝鮮半島との協力も具体的に進める必要がある。

筆者たちによる報告は、『(独)産総研活断層研究センターニュース』No.15, 『(社)日本地震学会ニュースレター』Vol.14 No.3, 国立歴史民俗博物館展示通信『歴史・災害・人間』第9号, 『震災予防』186 or 187号などに掲載、または掲載予定。

2003年1月6日付記: 本報告に関連する文献として以下のものがある。

- 佐竹健治: 歴史地震に関する国際ワークショップ, 活断層研究センターニュース, No.15, 2002年7月。
佐竹健治・石橋克彦: 歴史地震に関する国際ワークショップ, 震災予防, No.186, 9-10, 2002年9月。
石橋克彦・北原糸子・佐竹健治: イタリアにおける歴史地震学国際ワークショップ, 日本地震学会ニュースレター, Vol.14, No.3, 6-7, 2002年9月。
北原糸子: イタリア歴史地震ワークショップ報告, 展示通信 歴史・災害・人間, 第9号, 4-7, 2002年10月。
佐竹健治: イタリアでの歴史地震の国際ワークショップに参加して, 展示通信 歴史・災害・人間, 第9号, 8-10, 2002年10月。